

入間市納税貯蓄組合長賞

私達の教育費

向原中学校 三年 竹内 唯華

日本は義務教育があります。私達には当たり前であり、毎日、何で勉強しなければいけないんだ、宿題があるのか、将来、この計算を使うのかとマイナスな考えを持って過ごしている生徒達が多いと思います。私も勉強が嫌いで、課題に日々追われ、うんざりです。勉強の他にも学校では体育や実験など、様々なことを行っていていきます。楽しいこともありますが、何でこんなことをと思ってしまうこともあります。

そんな学校での生活を細かく考えてみると、毎日教室で使っている電気の代金、私たちが使っている机や椅子、図書室にある本は誰のお金で買ったのだろうか。体育の時に使うボールやマット、音楽室の楽器など、沢山のものがそろっているのが学校です。

考えれば考えるほどお金がかかっています。そして、その小・中学校は私の住んでいる市で何十校とあります。

そこで私はインターネットで調べてみました。小・中学の教材、毎年もらう教科書、学校の建物、先生方のお給料まで全てのもものが税金から出ていると書かれました。学校一校建てるのに約十七億円、黒板は約十万円、机は約一万円、体育館のバスケットとゴールは一对約三十五万円とでてました。想像をはるかにこえる金額に驚き、少し震える程でした。また、国税庁のHPによると生徒一人

当たりの年間教育負担額がでていました。小学生一人約八十八万円、中学生は約百十五万円、一年間にかかっているといえます。

正直、今まで約九年近く小学校・中学校へ毎日通っていましたが、そんなことは考えもしませんでした。私たちの親や地域の人々が一生懸命働いて、支払っている税金が使われているのだということを実感しました。

毎日何げなくある学校の備品等も、自分の親等の税金が買ってくれていると思うと、今までとは違う感情が生まれてきました。そして、これだけの大金を子供達一人一人に、実は使われていて、勉強できる環境を作ってもらえていると思うと、私たちは何と恵まれているんだと思いました。

アジアでは学校に行けない子供がいる国もあります。毎日ゴミを拾い、その日を暮らしている子供達をTVで見たことがあります。またきれいな水が無く、病気で死んでいくアフリカの子供がいることも知っています。そんな子供達を思い浮かべると、日本は何と、恵まれた環境の学校へ子供が行けるシステムになっているのだろう、すばらしい国だと思いました。

勉強して、何にでもなれる未来があります。子供全員が勉強でき、将来の夢を持てます。沢山のお金をかけ、環境を整えたのが日本の教育制度です。私達には、勉強できる環境があります。それを活かすも活かさないも自分自身です。私は学校へ行くことの意味をもう一度考えなおそうと思います。